

『めざせ500人!!』 総合防犯設備士には『数』が必要

総合防犯設備士委員会 委員長
総合防犯設備士資格番号 第01-0018号

永井 健三



2018年4月、期せずして総合防犯設備士委員会委員長を拝命しました。私は、総合防犯設備士のいわゆる1期生。以来、2004年から総合防犯設備士委員会の委員、2005年から総合設備士資格試験セミナー講師、問題作成委員、講習認定講師、など総合防犯設備士制度に携わる末席を汚してきました。自ずとこの制度には愛着があり、大きな期待を寄せる者一人です。

【めざせ500人!!】

総合防犯設備士に求められる任務には、設備士の育成や教育をすること、防犯監査や防犯コンサルティングができます。日本防犯設備協会(以下、協会)は、2016年から防犯設備士の資格更新制度をスタートしておりますが、これを現在のレポート方式から講習方式とし、さらにこの講習方式の講師を総合防犯設備士に委ねることを検討しています。更新時講習の講師派遣は、総合防犯設備士委員会から総合防犯設備士に委ねる。この関係を効率よく回すことにより、設備士の更新時講習制度の体制が早期に確立できると考えます。

2018年4月現在、総合防犯設備士登録数は367人、防犯設備士登録者数は27,848人。総合防犯設備士の適切な数は、何人か。正答は見当たらない。今後、総合防犯設備士が防犯の専門家として、事業として成り立ち、内外にその活躍の場を求めるなら、根拠のない乱暴な言い方ではあるが設備士数の10%は最低限必要と考えます。総合防犯設備士登録者数が「ゼロ」の県は、新潟県、山梨県、長野県、鳥取県、徳島県、愛媛県、佐賀県の7県。将来を見据えた事業は枚挙にいとまないし、内外からその活躍が期待されています。まず、「数」の分母が無いと、活動も事業も成り立たないと考えます。

設備士の更新時講習講師を総合防犯設備士が担う、登録者数「ゼロ」の県を無くす、この2つを目の前の最重要課題として委員会は取組んでまいります。その為には、2020年3月31日までに『500人』の登録を実現すべく委員会を挙げて、否協会を挙げて取り組みます。キャッチフレーズは『めざせ500人!!』。

【「総合の試験は難しい」と言う風評を払拭する】

「総合の資格を受験しませんか」、「総合の試験は難しい、もうイイよ」「以前挑戦したが、難しく不合格だった。もう、うけないよ」。受験セミナーの受講や試験の受験を勧める委員会メンバーと受験対象者の会話です。難しいと言う風評を定着させたのは、試験問題作成委員を担ってきた私も「戦犯の一人」と言えるかもしれません。しかし、より高度な理解力・表現力を求めた結果であると理解して頂きたいと思います。

2016年までの合格率は、29.2%に留まります。合格率だけを見ると確かに低いです。総合の試験は、論文形式、全て記述式であり、ただ単に丸暗記するだけでは点は取れなく、総合的な知識や表現力が要求されています。

受験セミナーでは、過去問題(協会HPで過去5年間の過去問題が公開されている)の解読の仕方、解答の書き方を徹底的に講習します。担当する講師陣は、協会から委嘱された認定講師が担っています。過去問を中心とした受験セミナーは、2017年から実行されています。結果、2017年の合格率は、63.9%でした。2018年の結果も期待されています。

講師陣の私心を捨てた熱心な講習に敬意を表し、感謝します。

【2020年に向けて】

2020年は、「めざせ500人!!」プロジェクトの最終年;

- ①「総合の試験は難しい」という風評を払拭するため、
合格体験談などで広く「外」へ向けて受験者を「そ
の気にさせる」施策を講じる。「総合の合格率が大幅
UP中!!今が旬」などのキャッチで拡散させる。
- ②チラシを漫画チックな親しみ易いものに一新し、それを
一つの手段として、あらゆる機会を通じて拡散する。
- ③拡散先は、防犯設備士資格取得後3年を経過した防
犯設備士有資格者に対し直接DM、e-mailなどで周
知する。また協会のHPやメルマガを通じて周知する。
これらのアクションを最低年間4回は実行する。
- ④総会や研修会(地域協会主催も含む)などあらゆる機
会を通じてPRする。
- ⑤セミナー受講生の負担を軽減し、総合防犯設備士を
身近に感じてもらうため、東京と大阪の会場以外でも
受験セミナー開講を検討する。他の地域での開催など
を検討する。経済計算も重要な要素となる。
これらの試みは、地域での様々な活動の布石になる
はずである。

500人達成は、安全・安心の伝道師「総合防犯設備
士」序奏の第一歩に過ぎない。